

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

宮古島で子どもたちの自立支援に尽力 金融広報と自立支援の両面で活躍中

沖縄県金融広報委員会
金融広報アドバイザー

洲鎌加代子

「受講する人に喜んでもらえる講座」をモットーに、金融広報と子どもの自立支援の2つの領域で活躍している洲鎌加代子さん。対象者の目線、求められているテーマを丁寧に調べ、受講者の心に響く活動を行っています。

* * *

人口約5万5000人の沖縄県宮古島市でただ一人、金融広報アドバイザーとして活躍する洲鎌さん。市の教育委員会ではスクールソーシャルワーカーとしても活躍しており、両方の立場・観点で、「子ども」を支援する活動を行っているのが、洲鎌さんの大きな特徴です。

金融広報アドバイザーの活動は幼児から高齢者まで対象が幅広く、依頼を受けると必ず事前に面談や下調べを行い、対象に合った話題を準備して講演を行っています。

小学校では、普段の取り組み内容



平成11年より5年間、沖縄県県民生活センター宮古分室で消費生活相談員として勤務したのち、金融広報アドバイザーに。同時に16年から宮古島市教育委員会に籍を置き、小中学生への自立支援指導員を5年間務め、20年からは、不登校やいじめに悩む子どもたちが抱える課題や背景（家庭環境・地域）に目を向けた支援を行い、行政とのネットワークで具体的な福祉や医療へとつなげるスクールソーシャルワーカーとして活躍中。

高齢者サロンの講

演でも、リーダーのもとへ事前に3回は足を運び、参加者の構成や特徴をきちんと確認し、参加者に合った講演内容を考えます。そこでは、最新の消費者トラブルに関する情報提供や注意喚起を行います。

そこで参加者から聞かれる家具や電化製品にまつわる昔話は「今どきの子ども」の『物を大切に

にする心、働く意識』の向上に繋がるエピソード満載で『おばあちゃん力』を実感しています。

一方、幼少児を持つ母親たちには「家庭でできる金銭教育」をテーマに、子どもの発達段階に応じた心理・行動面の課題を盛り込んだ講演をす

ることが洲鎌さんの持ち味です。

「宮古島は冠婚葬祭や祝いごとなどにかかる消費行動が盛んな地域。豊かにみえる一方、金銭トラブルが原因で離婚、子どもの養育・教育問題に悩み苦しむ30〜40代の主婦たちの相談にも携わってきた」と洲鎌さん。そういったトラブルに子どもが巻き込まれないように、という強い思いが現在の仕事に繋がっており、子どもへの教育だけでなく母親たちのサポートにも取り組んでいます。

また、特別支援学校高等部の生徒に対しては、日ごろの生産・作業活動の成果を共に喜び称え、就労意識の向上を意図した内容を伝えるように心がけています。

今後は、『キャリア教育』と『消費者教育』の2つの視点から、「子どもたちの自立に向けた講座を作ることで、中高生のサポートもしていきたい」と意欲を燃やしています。